2026年11月27日

GREEN×EXPO 2027 における東急グループ出展施設「とうきゅうグループ館」の展示内容などを発表

～グループ各社が連携し、出展テーマ「GREEN　LIFESTYLE　2050“種から育み、つながる未来”」を表現します～

東急グループ

東急グループは、2027年3月19日（金）から9月26日（日）まで横浜市で開催される「GREEN×EXPO 2027（2027年国際園芸博覧会）」（以下、本博覧会）の「西GXビレッジ」において出展する「とうきゅうグループ館」について、展示内容などに関する最新情報をお知らせします。

出展テーマは「GREEN　LIFESTYLE　2050“種から育み、つながる未来”」です。東急グループが100年以上にわたり進めてきた人・社会・自然が調和したまちづくりを踏まえ、グループ各社が連携し、自然と都市が融合する2050年の暮らしを提案し、来館者の皆さまとともに未来を考える場を目指します。

屋外の「紡ぎの庭」は、東急グリーンシステム株式会社がランドスケープ計画を担い、「はじまり」「芽吹き」「育つ」「花咲く」をテーマにした4つの庭で構成し、植物の成長や人と自然のつながりを五感で感じられ、土の中で種が育まれているイメージで建物と調和した外構空間です。植栽には、伊豆急ホールディングス株式会社が推進する「伊豆オリーブみらいプロジェクト」で栽培するオリーブの木や、地域由来の在来種を活用し生物多様性の保全に貢献する東急建設株式会社の「チイキツリー」を採用します。植栽への散水には、東急株式会社がオープンイノベーションラボ「SOIL」に導入している水循環システムを使用します。東急の提供により「とうきゅうグループ館」隣接の多目的トイレに同システムを設置し、排水を浄化して、トイレの洗浄水と植栽への散水に再利用します。

屋内展示は、物語の主人公とともに2050年の未来のまちでの「働く、遊ぶ・集う、暮らす」場面を巡るアニメーション映像を上映する参加型シアターです。映像制作は大阪・関西万博でも実績のあるビジュアルデザインスタジオ「WOW」が、脚本は俳優や脚本家など幅広く活躍している神谷圭介氏が担当します。来館者の皆さまには、等々力緑地において再編整備の過程で生じた樹木と大阪・関西万博のシンボル「大屋根リング」の柱材をアップサイクルした椅子で展示をご覧いただきます。配布するうちわ型のデバイスで風を起こす演出に参加いただき、一人ひとりが未来をともに考え、ともにつくる存在であることを感じていただける展示体験を目指します。

運営面では、東急セキュリティ株式会社の警備システムを採用し、清掃業務は東急プロパティマネジメント株式会社が担当します。運営スタッフはイメージキャラクター「みらいだね」を取り入れたユニフォームを着用します。

なお、本博覧会においては東急グループで総合造園事業を行う株式会社石勝エクステリアが、本博覧会会場のB工区造園工事を受託するとともに、「とうきゅうグループ館」の隣接地において、「みどりと共に－2127－」をテーマとした花・緑出展を行います。

加えて、東急不動産ホールディングス株式会社は、東急および東急建設と共同で、本博覧会協会が実施する全国の高校生向け教育プログラムの教材制作に協力しました。森林整備や地域資源の循環利用など東急リゾートタウン蓼科を中心とした東急グループの取り組みを紹介し、次世代の環境教育に取り組んでいます。

本博覧会の会場へは、田園都市線南町田グランベリーパーク駅からシャトルバスが運行されるほか、東急新横浜線新横浜駅も主要な交通結節点として機能します。特別企画列車「GREEN　LIFESTYLE　TRAIN」も運行していますので、本博覧会へはぜひ東急線をご利用のうえご来場ください。

今後も、開幕に向けて「とうきゅうグループ館」の最新情報を順次発信していきます。

以　上





▲「とうきゅうグループ館」イメージパース（左：日中、右：夜間）



▲屋内展示イメージ

【別紙】

「とうきゅうグループ館」の展示内容および施設づくりの取り組み

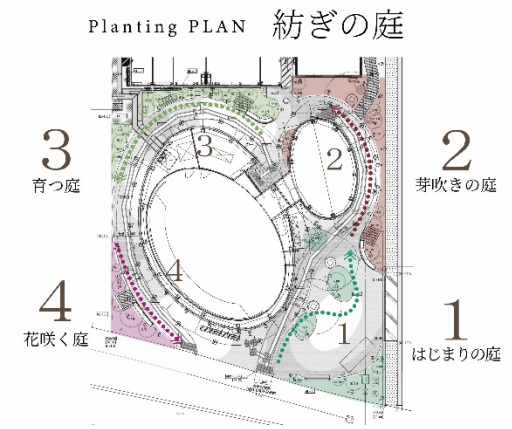
1．ランドスケープについて

（1）植物の生命のサイクルを五感で感じる「紡ぎの庭」

「とうきゅうグループ館」のランドスケープは、東急グリーンシステム株式会社が設計・施工を担当し、植物の生命のサイクルを五感で感じられる「紡ぎの庭」を演出します。グランドデザインは、土の中で種が育まれているイメージを舗装パターンに落とし込み、種形状の波紋が広がるデザインとすることで、建物とリンクする有機的な外構空間を創出します。

庭は「はじまりの庭」「芽吹きの庭」「育つ庭」「花咲く庭」の4つのエリアで構成し、来館者が建物の周囲を巡りながら、植物の成長や季節の移ろいを感じられる空間を創出します。それぞれの庭が持つ特徴を生かし、植物の生命力や自然とのつながりを体感できる庭づくりを目指します。

はじまりの庭　：　グラス類を中心とした植栽により、風に揺れる葉の動きや葉音を楽しめる空間
芽吹きの庭　：　オリーブなどの果樹やハーブを取り入れ、食と植物のつながりを感じられる空間
育　つ　庭　：　木漏れ日のあるウッドランドガーデンとして、植物の香りや緑の変化を感じられる空間
花　咲　く　庭　：　季節ごとにテーマカラーを変え、春から秋にかけて異なる花々の彩りを楽しめる空間



東急グリーンシステム株式会社
https://www.tokyu-greensystem.com/

（2）「紡ぎの庭」の植栽

伊豆急ホールディングス株式会社が東急株式会社とともに進める「伊豆オリーブみらいプロジェクト」で栽培するオリーブの木や東急建設株式会社が展開する「チイキツリー」を植栽に採用します。

「伊豆オリーブみらいプロジェクト」は、2013年に始動し、オリーブの栽培・加工・販売などを通じて伊豆地域の活性化を目指す取り組みで、荒廃農地の有効活用や、伊豆産オリーブのブランド化を推進しています。

「チイキツリー」は、種子の採取地と生産地をたどることができる在来種の緑化樹木で、採取された流域とその周辺地域で利用することで、その地域の生態系や生物多様性の保全への貢献を目指しています。

これらの植栽を通じ、地域の暮らしとのつながりを感じられる空間づくりと、自然環境・生態系に配慮した庭づくりを進めます。



株式会社ウィズオリーブ（伊豆急ホールディングス株式会社の100%子会社）
https://www.witholives.com/

チイキツリー
CHIIKI TREE

「チイキツリー」（東急建設株式会社）　https://www.tokyu-cnst.co.jp/chiikitree/

2. 展示について

（1）2050年の未来のまちを巡る来館者参加型シアター

「とうきゅうグループ館」では、出展テーマ「GREEN　LIFESTYLE　2050“種から育み、つながる未来”」を表現する、来館者参加型のシアター展示を展開します。

物語の主人公とともに2050年の未来のまちを巡り、「働く、遊ぶ・集う、暮らす」という日常のさまざまな場面を通じて、自然と都市が融合する未来のライフスタイルを体感いただきます。配布するうちわ型のデバイスで来場者の皆さまに風を起こす演出に参加いただき、一人ひとりが未来をともに考え、ともにつくる存在であることを実感できる、新たな「種」を育む共創体験の場を目指します。

（2）映像制作・脚本について

シアター展示の映像制作は、ビジュアルデザインスタジオ「WOW」が担当し、脚本は神谷圭介氏が手がけます。

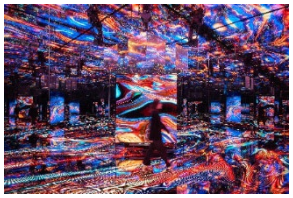
■映像制作：WOW

東京、仙台、ロンドンに拠点を構えるビジュアルデザインスタジオ。企業の世界観を体現するブランド映像やインスタレーション、アプリやユーザーインターフェースの開発など、幅広いデザインワークを手掛ける。オリジナルのアート作品やプロダクトも積極的に制作し、国内外の美術館・ギャラリーで展示を多数開催。クリエイター個人の感性を起点に、世界の新たな一面を照らし、人々の心を躍動させる視覚表現を追求し続けている。

大阪・関西万博のシグネチャーパビリオン「null²」に、クリエイターチームとして、企画・映像・サウンド・演出システム全般に参画。企画初期から演出メンバーとして参加し、展示館内の映像、音響、ロボット制御、体験フローから館外映像まで、多岐にわたるクリエイティブ要素を万博プロデューサーである落合陽一氏とともに数年かけて作り上げた。

「BLUE　OCEAN　DOME」で映像コンテンツの演出・制作を担当。日本デザインセンター・原研哉氏のディレクションのもと、直径約10メートルの凸型半球LEDディスプレイを用いて、地球に息づく生命の営みや深刻化するプラスチック海洋汚染の問題を圧倒的な映像美で表現した。

WOW



©Yoichi Ochiai



©TAIKI FUKAO

WOW　https://www.w0w.co.jp/

■脚本：神谷圭介（かみやけいすけ）



コントグループ「テニスコート」のメンバー、ソロプロジェクト「画餅（えもち）」主宰。
ナンセンスコメディをベースとしたテニスコートの公演活動の他、2022年始動の脚本・演出・出演を行うソロプロジェクト「画餅」は、舞台公演と映像作品の新しい表現を提示し、テレビプロデューサーの佐久間宣行氏から絶賛されるなど、“劇場と配信”で大きな反響と実績を残す。
2017年に玉田企画への出演をきっかけに舞台や映像作品へと活躍の幅を広げ、2022年にシアター・コクーンで上演された、ケラリーノ・サンドロヴィッチ氏の作品「世界は笑う」に出演。2027年4月全国公開の宮藤官九郎主演の映画「真犯人」では脚本を担当。俳優、脚本提供、雑誌での連載やイラスト作画など活動は多岐にわたる。

3. 資源循環の取り組みについて

(1)水循環システムの提供・活用

東急は、オープンイノベーションラボ「SOIL」に導入している水循環システムを、「とうきゅうグループ館」に隣接する多目的トイレに提供します。トイレから排出される汚水を、残留性のある化学薬品を一切使用せず微生物の働きによって浄化し、トイレの洗浄用水として循環利用するとともに、再生水の一部を「とうきゅうグループ館」の植栽への散水に利用します。水資源使用量の削減を通じて、持続可能な GREEN×EXPO 2027 の開催に貢献し、循環型社会の実現を目指します。





水循環システムの「SOIL」への導入(東急株式会社)
https://www.tokyu.co.jp/company/news/detail/56161.html

(2)等々力緑地の樹木の再活用

「とうきゅうグループ館」のメイン展示室の椅子に、東急株式会社を代表企業とする川崎とどろきパーク株式会社が再編整備・運営を担う等々力緑地において整備の過程で生じた樹木の切り株を活用します。地域で育った樹木を、来館者が実際に触り、座ることのできる椅子として利活用することで、木材の形や質感を身近に感じながら、資源循環の大切さに触れる機会を創出します。

また、会期終了後には、これらの椅子を等々力緑地で再活用する予定です。地域から博覧会へ、そして再び地域へと資源をつなぐことで、会期終了後も見据えた循環利用に取り組みます。





川崎とどろきパーク株式会社
https://kawasaki-todoroki-park.co.jp/

(3)大阪・関西万博の大屋根リング部材の再活用

2025年に開催された大阪・関西万博のシンボルであった「大屋根リング」の柱材を、同じくメイン展示室の椅子に再活用します。大屋根リングは、全周約2km に及ぶ世界最大級の木造建築物であり、東急建設は「清水・東急・村本・青木あすなろ共同企業体」の一員として、南東工区の施工を担当しました。大阪・関西万博で多くの来場者を迎えた大屋根リングの柱材が、GREEN×EXPO 2027 では来館者が腰を下ろす椅子として新たな役割を担います。

東急グループが建設に携わった大屋根リングの部材を次の博覧会へと引き継ぐことで、資源の循環利用を図るとともに、二つの博覧会の記憶と価値を未来へつなぎます。

東急建設株式会社 https://www.tokyu-cnst.co.jp/

4. 運営について

(1)東急グループ各社による安全・快適な施設環境づくり

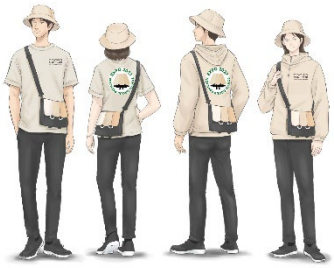
「とうきゅうグループ館」では、東急セキュリティ株式会社の警備システムを採用し、清掃業務は東急プロパティマネジメント株式会社が担当します。それぞれの専門性を生かし、来館者の皆さまが安全かつ快適に過ごせる施設環境を整えます。

東急セキュリティ株式会社 https://www.tokyu-security.co.jp/

東急プロパティマネジメント株式会社 https://www.tokyu-pm.co.jp/

(2)イメージキャラクター「みらいだね」を取り入れたスタッフユニフォーム

「とうきゅうグループ館」では、運営スタッフが、イメージキャラクター「みらいだね」を取り入れたユニフォームを着用します。Tシャツ、ブルゾン、バケットハットは建物の外観と調和する色合いを採用。また、サコッシュにはイメージキャラクター「みらいだね」をあしらい、親しみやすさを表現しています。統一感を持たせたユニフォームで、来館者の皆さまをお迎えします。



5. GREEN×EXPO 2027 における東急グループの幅広い取り組みについて

(1)石勝エクステリアによる会場造園工事および花・緑出展への参画

東急グループで総合造園事業を行う株式会社石勝エクステリアは、本博覧会会場のB工区造園工事を受託し、会場の環境づくりに携わっています。さらに、同社は、「とうきゅうグループ館」の隣接地において、「みどりと共に－2127－」をテーマとした花・緑出展を行います。本出展では、「景観10年・風景100年・風土1000年」を基本理念に、これまで培ってきた環境緑化技術と、自然の機能を活用して社会課題の解決を図るネイチャー・ベースド・ソリューション(NbS)の考え方のもと、グリーンインフラ技術の導入や資源循環を利用して、来場者がくつろげる自然と共生した憩いの空間を創出します。みどりに触れ、体感し、学ぶことで環境を考え共生する「環共市民」への一歩を共に歩みだしていきたいと考えています。





株式会社石勝エクステリア
https://ishikatsuext.jp/

(2)全国の高校生向け教育プログラムへの制作協力

東急不動産ホールディングス株式会社は、東急および東急建設と共同で、公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会が実施する全国の高校生向け教育プログラム(2026年8月公開)の教材制作に協力しました。

本教材は、「CO_2を『出す』から『活かす』へ ～カーボンニュートラルで描く2050年の暮らし～」をテーマに、カーボンニュートラルや自然との共生、資源循環などについて学ぶ内容です。東急不動産ホールディングスが取り組む「東急リゾートタウン蓼科」を中心に、森林の間伐による生態系の保全、地域のカラマツ材を活用した家具や製品づくり、間伐材を燃料とするバイオマスボイラー、CO_2の資源化など、東急グループの具体的な環境への取り組みを紹介しています。

また、2050年の暮らしを想像する個人ワークやグループワークを実施し、次世代を担う高校生が、環境課題を自分たちの暮らしと結びつけ、持続可能な未来の社会について主体的に考える機会を提供します。

高校生向け教育プログラム https://expo2027yokohama.or.jp/sponsorship/education/highschool-program/

東急不動産ホールディングス株式会社 https://www.tokyu-fudosan-hd.co.jp/

6. 関連情報

(1)「とうきゅうグループ館」の建築状況および夜間演出

「とうきゅうグループ館」は、2027年1月末の竣工に向けて工事を進めています。

形や大きさの異なる植物の「種」をモチーフとし、それぞれの種が寄り添うように連なるデザインを採用しており、屋根には鉄骨フレームで支持する白色の膜材を、外壁には黒色の保護塗装を施した木板を使用します。周囲に広がる花や緑を引き立てるとともに、来館者に親しみを感じていただける空間を目指します。

夜の訪れとともに、「とうきゅうグループ館」は昼間とは異なる幻想的な表情を見せます。屋根の内側から照明を当てることで、膜屋根全体が柔らかく発光し、まるで大きなぼんぼりのように、GREEN×EXPO 2027 の夜空に浮かび上がります。温かな光で建物を包み込み、日没後の会場に彩りを添えるとともに、夜間のにぎわい創出に貢献します。







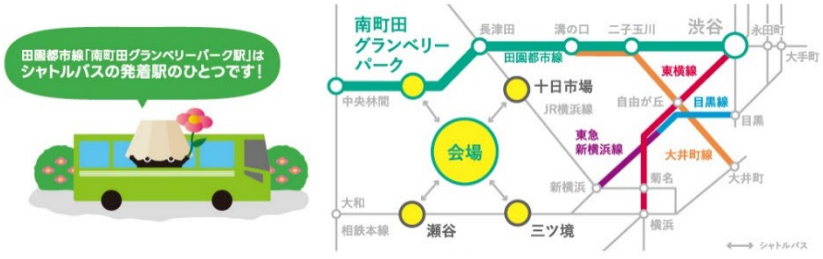
(2)「とうきゅうグループ館」特設サイト

https://tokyugroup-greenexpo2027.jp/

(3)その他

本博覧会の会場へは、田園都市線南町田グランベリーパーク駅からシャトルバスが運行されるほか、東急新横浜線新横浜駅も主要な交通結節点として機能します。特別企画列車「GREEN　LIFESTYLE　TRAIN」も運行していますので、本博覧会へはぜひ東急線をご利用のうえご来場ください。

「GREEN　LIFESTYLE　TRAIN」運行について https://www.tokyu.co.jp/company/news/detail/61331.html



以　上